

氏名	森元裕貴
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5105 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Involvement of platelets in extrahepatic metastasis of hepatocellular carcinoma (肝細胞癌遠隔転移における血小板の影響)
論文審査委員	教授 加藤宣之 教授 塚原宏一 准教授 金廣有彦

### 学位論文内容の要旨

近年血小板と癌の転移との関連が報告されている。本研究の目的は、肝細胞癌（HCC）の肝外転移（EHM）に関与するリスク因子について、血小板を含め検討することである。

対象は、1991 年 1 月から 2012 年 8 月までに当科で治療を受けた初発 HCC1613 症例。初回治療時 EHM 陽性となる因子について、初回治療時の臨床データを用いてロジスティック回帰分析により解析した（症例対照研究）。また同期間において非根治治療を施行した HCC803 症例において、治療後に EHM が出現するリスク因子について、初回非根治治療時の臨床データを用いて Cox 比例ハザードモデルにより解析した（後向きコホート研究）。

症例対照研究での多変量解析により、血小板高値、多発腫瘍、脈管侵襲陽性が有意に初回治療時 EHM 陽性と関与していた。後向きコホート研究での多変量解析では、EHM リスク因子として多発腫瘍、DCP 高値、Child-Pugh 分類 A が抽出された。血小板も EHM 出現症例において高値である傾向を認めた( $p=0.055$ )。

以上より、血小板高値、多発腫瘍、DCP 高値、Child-Pugh 分類=A が、HCC の EHM リスク因子であると考えられた。

### 論文審査結果の要旨

本研究では、1991 年から 2012 年の間に岡山大学病院にて治療を受けた初発肝細胞癌(HCC)1613 例を対象として、肝外転移（30 例）に関与するリスク因子について検討した。この症例対照研究での多変量解析により、血小板数高値、多発腫瘍および脈管侵襲陽性が有意に肝外転移陽性と関与していることを明らかにした。また同期間において非根治治療を行った 803 症例の観察期間中（平均 23 ヶ月）に出現した肝外転移（71 例）についても同様に肝外転移に関与するリスク因子について検討した。この後向きコホート研究での多変量解析では、多発腫瘍、DCP 高値および Child-Pugh 分類 A が肝外転移症例において有意であることが分かり、血小板数も肝外転移例で高値である傾向を認めた。本研究の結果、肝外転移出現リスク因子として血小板数高値を初めて示した点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。